

# 01 | 2019年度プロジェクトA活動報告

## アクア事業に係る活動

### エビ類

- ◆ 陸上エビ養殖事業者を視察・意見交換（和歌山4/10）
- ◆ 三重大学筒井准教授にウシエビ養殖に係る研究を委託（三重大学4/22）
- ◆ 陸上エビ養殖システム企業 I 社にヒアリング（東京5/15）
- ◆ 漁業関係者にウシエビの生態についてヒアリング及び実験用ウシエビ採捕依頼（高知7/4 浜松7/19）
- ◆ 岐阜県H社バナメイエビ養殖場視察・意見交換・誘致協議（岐阜8/30 10/27 11/24 12/25 尾鷲9/25 12/16）
- ◆ 三重大学にて筒井准教授がウシエビの飼育実験開始（11/1）
- ◆ 豪大使館商務官とウシエビの陸上養殖事業について意見交換（三重11/7）
- ◆ 県内バナメイエビ養殖新規参入事業者D社の視察・意見交換（三重12/16）
- ◆ (株)テクノ中部が養殖技術であるバイオフィロックテクノロジー（以下BFT）によるB F 生成を試みる（愛知6/24～）
- ◆ 三重県栽培漁業センターにBFTに係るヒアリング（7/18）
- ◆ 三重県水産研究所尾鷲水産研究室にてBFTによるバナメイエビの飼育実験開始（1/20～）
- ◆ 国内大手クルマエビ養殖事業者 T 社にバナメイ養殖にヒアリング及び事業化について協議（福岡2/11）

### 海ブドウ・藻類

- ◆ 三重大学岡崎准教授に海ぶどうの機能性成分に係る研究を委託（三重大学5/10）
- ◆ 岡崎准教授と海ぶどう養殖事業者Y社と意見交換（三重6/6）
- ◆ Y社による海ぶどう養殖実験を尾鷲水産研究室にて実施（7/3～8/23）
- ◆ Y社に海ぶどう事業のF S 調査ヒアリング（三重10/31）
- ◆ 上場機械メーカーN社と藻類養殖事業について意見交換・事業誘致（尾鷲11/26 三重大学11/11 12/12）
- ◆ 新規参入希望事業者と海ぶどう養殖事業化について協議（尾鷲2/25）

### 魚類・貝類 他

- ◆ 外資系魚類養殖システム企業と意見交換・事業誘致（尾鷲7/8 東京12/2 尾鷲2/17）
- ◆ 県内貝類養殖企業M社と意見交換・事業誘致（三重12/10 尾鷲2/24）
- ◆ 中部地区大手小売企業V社と意見交換・事業誘致（愛知1/23）
- ◆ 陸上養殖関連セミナー参加（陸上養殖勉強会 他）（東京8/23 鹿児島10/9～11 大阪2/19 松阪3/4）

# 02 | 2019年度プロジェクトA活動報告

## アグリ事業に係る活動

- ◆ アグリ事業検討部会において胡蝶蘭事業を手掛ける上場企業A社によるプレゼン実施 (尾鷲4/25)
- ◆ (株)テクノ中部と県内アグリベンチャー企業P社を視察 (三重5/30)
- ◆ 農業ジャーナリストにアグリ事業のトレンドについてヒアリング及びアグリ事業者への仲介依頼 (東京5/14 尾鷲9/5)
- ◆ アグリ事業投資会社D社と意見交換 (東京5/14)
- ◆ 大手アグリ事業者H社と意見交換 (茨城5/15)
- ◆ 菊切り花生産事業者Oグループ及び設備販売事業者I社視察・意見交換 (愛知9/5)

- ◆ 菊切り花生産事業者Oグループによる現地視察・意見交換・誘致協議 (愛知9/5 尾鷲9/6)
- ◆ バイオマスエネルギーを活用した大規模植物工場視察・ヒアリング (北海道10/10 岡山2/12)
- ◆ 県内バナナ農園を視察 (三重10/18)
- ◆ 県内大手食品会社T社の植物工場視察・意見交換 (三重10/18)
- ◆ アグリ事業に投資する県内企業B社にヒアリング・協力依頼 (三重2/7)
- ◆ アグリを中心とした県内産直市場M社にヒアリング (三重2/7)

## その他

- ◆ 飲食・物販施設について地元事業者と意見交換
- ◆ 飲食・物販施設並びに宿泊・アクティビティ施設の視察・ヒアリング・事業誘致 (福岡 他)
- ◆ 飲食・物販施設について有識者へのヒアリング・協力依頼

- ◆ 大手損保会社とSDGsについて意見交換
- ◆ A-FIVE (株式会社農林漁業成長産業化支援機構) と意見交換
- ◆ 三重県と企業誘致施策等について情報交換・意見交換 (雇用経済部・南部地域活性化局 他)
- ◆ 三重大学・三重TLOと新事業の可能性について情報交換・意見交換

# 03 | 2019年度プロジェクトA活動報告

## 《 バイオフィロックテクノロジーシステム（BFT）によるバナメイエビ飼育実験 》

**目的：** 従来の養殖方法に比べ、生産性向上が期待できるBFTを用いたエビ類の飼育を行い実用可能な知見を得る。

**体制：** アクア事業検討部会・陸上エビ養殖研究会のメンバーで実施

**協力：** 三重県水産研究所 尾鷲水産研究室（実験実施場所）

**概要：** 2020年1月20日に稚エビを搬入し、500 L 規模の水槽を用いた飼育実験を開始。実験区は収容密度の違いによる3区を設け、生産効率を把握するための基礎データの取得を目指した。



### 実験中間報告

- 実験開始直後、水質変動が大きく数日で多数が斃死。
- 生残が著しく低下したため比較実験を中止して、1水槽に集約。
- 飼育方法を改善し、水質は安定。少数個体の飼育を継続



### 今後の活動

- 稚エビの買付ルートの確立・エビ飼育のノウハウ取得
- BFTを含む効率的・経済的な養殖システムの検討
- 事業化可能性調査・マーケティング調査
- 事業スキームの検討・事業計画の策定

# 04 | 2019年度プロジェクトA活動報告

## 《 海ぶどう養殖実験 》

目的：尾鷲湾内水の海ぶどう養殖利用の適合性を調査  
体制：アクア事業検討部会・海ぶどう養殖事業者による研究  
協力：三重県水産研究所 尾鷲水産研究室  
概要：尾鷲水産研究室屋外にて海ぶどうの母藻を用いて実験開始  
尾鷲湾内水をかけ流し方式により供給（7月3日～8月23日）

### 実験結果

- 開始直後は悪天候が続いたが、20日後には刈取りが可能なほど成長
- 7月後半の台風の際、遮光ネット撤去の為、紫外線のダメージにより成長停止
- 8月に入り、回復は見られたが、商品としての価値まで回復せず実験終了



尾鷲湾内の水質に問題なし  
事業化の際は、設備を整えるため紫外線等に対応可能



### 今後の活動

- 海ぶどうのマーケティング調査（進行中）及びF S調査
- 来期の海ぶどう養殖実験再開
- S P C設立、プラント設計・建設等のスケジュール作成
- 事業資金の検討及び地代・水道代等の提示



# 05 | 2019年度プロジェクトA活動報告

## 《 菊切り花生産事業者グループ 》

9月5日 グループ定例会議を視察（愛知県）

9月6日 グループ代表及び協力企業が尾鷲を視察

### グループの特徴

- グループの年商20億円（業界最大規模）、今後も拡大傾向にあり
- 大分県と愛知県を中心に生産拠点をもち、高品質商品を安定的に供給することで強いマーケットを構築
- 独立希望の若手を育て、独立後も定例会議等で生産技術やマーケットについて研修を実施
- ロボットやIoT等の先進技術導入にも積極的
- 尾鷲の環境的條件については、これまで培ったノウハウがあるため問題ない
- 資金的・費用的条件が整えば、進出に意欲的
  - 資金的条件：国の補助に加え、県・市からの補助、政策金融公庫の活用
  - 費用的条件：土地・水道等の費用

### 今後の活動

- 資金的・費用的条件の整理・提示
- 排熱利用の提案・検証
- 当地域及びSEAモデル関係事業者とのシナジー検証

